

中国の大学生における「男らしさ」とデートDV

Dating Violence and Masculinity among Chinese College Students

賀 薇

Wei He

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 言語文化学専攻 博士前期課程

キーワード：デートDV, 男らしさ, 大学生

Key words : Dating Violence, Masculinity, College students

1. 研究目的

本研究の目的は、「男らしさ」とデートDV（デート・ドメスティック・バイオレンス）の関係性を明らかにすることである。本研究を通じて、社会に根付くジェンダー規範、特に「男らしさ」に関する固定観念がデートDVにどのような影響を与えるのかを分析し、そのメカニズムを解明することを目指す。さらに、デートDVの予防策や対策の立案に貢献するとともに、ジェンダー間の差別や不平等の是正にも寄与したいと考える。本研究の成果が、社会全体の意識改革を促し、より包括的で平等な人間関係の構築に資することを期待している。

また、中国のデートDVに関する研究が不足しているなか、中国に関するジェンダー研究をより豊富にすることができる点で、目的になる。そして、「男らしさ」とデートDVの関係性に対する研究は中国のみならず、日本でもほとんど行われてなかったため、本研究を通して新たな視点を提供していくという点である。

2. 研究実施内容

このテーマの特性を考慮し、本論文の研究手法として、半構造化インタビューとケーススタディを採用する。

まずは、中国で人気のあるSNS「小紅書（Red Note）」にデートDVの経験者を募集する投稿を行い、インタビュー対象者を募集する。日本に留学している中国人学生の多くが、このプラットフォームを活用して卒業論文

のインタビュー対象者を見つけているためである。

次に、インタビュー対象者が半構造化インタビューへの参加に同意し、インフォームド・コンセント書類に署名した後、インタビューを実施する。

最後に、得られたデータの中から重要な事例を選び、ケーススタディとして取り上げ、共通点や特徴を分析する。

3. まとめと今後の課題

本研究は、中国の大学生を対象に、デートDV（交際相手から行われる暴力）が起こる要因を分析し、「男らしさ」とデートDVの関係性を明らかにするものである。研究方法については、半構造化インタビューを併用する。半構造化インタビューを通じて、ジェンダー（男女役割分担や固定観念）に関する意識調査を行うと同時に、デートDV経験者に対して具体的事例内容、ジェンダー意識などを深く調査する。デートDVに見える共通性をいくつかのパターンでまとめ、「男らしさ」とデートDVの関係性を明らかにすることで、差別解消の一助にしたい。

今後の課題として、以下のように考えている。

まずは、研究対象の拡大である。本研究の対象は中国人学生だが、今後は日本の留学生と海外の留学生なども含め、異文化間の比較研究を行うことができる。そして、研究方法の多様化ということである。例えば、量的研究を取り入れ、アンケート調査を実施するこ

とで、より広範なデータを収集する。また、時間的視点の拡張する。例えば、留学の初期・中期・卒業後など、異なる時期の変化を追跡する縦断的研究を行う。さらに、社会・文化的背景の深掘りという視点も考える。例えば、日本の社会政策や企業文化が中国人留学生の就職・キャリア形成に与える影響を分析する。

付記

本研究は大妻女子大学人間生活文化研究所の令和 6 年度大学院生研究助成 (B) (DB2407)「中国の大学生における「男らしさ」とデートDV」を受けたものです。

This work was supported by Institute of Human Culture Studies, Otsuma Women's University (Grant Number DB2407).